



奈良県立医科大学眼科ニュースレター Vol. 9

教授 緒方奈保子



本年も暑くなりそうです。毎年暑くなってきているように思います。近頃、真夏は 35℃を超えるなんてのはざらで、体温を超える最高気温が連日記録されそうです。やはり温暖化なんのでしょうか？調べてみると今春の桜の開花は 20 年前に比べ約 1 週間早くなっていました。「入学式に桜」の定番が「卒業式に桜」が定番になるかもしれません。4 月初め、奈良ではすでに桜が散っていました

(写真 1、飛鳥川堤防) が、札幌ではさすがに桜もまだでした。今年は日本眼科学会総会が札幌で開催されましたが、ほぼ 20 年ぶりの開催だったそうです。関西からだると寒く感じましたが、街路樹の足下の植え込みにつくしがいっぱい出ているのにびっくりしました (写真 2)。やはり北海道はちょっと違う！さらに 4 月末、連休前の弘前では桜が満開 (写真 3、弘前城西堀)。日本は南北に長いと実感です。



写真1



写真2

みなさん、最近加齢黄斑変性の患者さんが増えたと思われませんか？iPS 細胞を用いた加齢黄斑変性の治療が報道されるようになってから、一般の人にも加齢黄斑変性という病名が広く知られるようになりました。高齢者が増加している事に加え、病名が知られるようになった事で、受診者が増え、また診断されるようになったのでしょうか？抗 VEGF 治療が行われるようになり、

さらに適応疾患が広がって抗 VEGF 薬の硝子体注射を行う件数が急増しています。いま外来は硝子体注射でパンク寸前です。なんとかこのエンドレスのお注射から脱却できる治療はないものか。。。

何事も変遷してゆくのが常ですが、専門医制度も変わろうとしています。新研修制度が始まって 10 年以上経過しました。今度は専門医制度の変革がやってきます。眼科ではまだいろいろ確定していないところが多いようですが、本当の意味で専門医の資格が有意義なものとなってくれる事を願います。



写真3

講演会

第6回AMDフォーラム in 奈良

平成27年4月24日に厳樞会館にて第6回AMDフォーラム in 奈良が開催されました。今回は特別講演として東京女子医科大学眼科主任教授の飯田知弘先生にお越し頂き、「AMDの病態と治療について」というタイトルでご講演頂きました。飯田教授は、昨年に引き続き2回目のご講演でしたが、AMDに対する新たな知見について最新のデータを多数お示し頂きながらご説明頂き、AMDに対する知識がさらに深まりました。



ご講演中の飯田教授

第9回万葉フォーラム

平成27年5月16日に橿原ロイヤルホテルで第9回奈良県眼科万葉フォーラムが開催されました。今回は特別講演として奈良県立医科大学糖尿病学講座教授の石井均先生に「糖尿病内科治療の進歩と眼合併症：奈良県における4万人実態調査を踏まえて」というタイトルでご講演頂きました。さらに東京大学大学院眼科・視覚矯正科准教授の加藤聡先生にお越し頂き、「糖尿病網膜症に対する網膜光凝固術と糖尿病患者のロービジョンケア」というタイトルでご講演頂きました。石井先生のご講演では、糖尿病患者がどのように考えているのか、また我々は糖尿病患者に対してどのように接し、指導をしていけばよいかなど、具体的なエピソードをお示しになりながら、とても分かりやすくご説明頂きました。また加藤先生のご講演では、糖尿病網膜症に対する最近の治療指針や、新しいレーザー治療システム、ロービジョンケアなどについて詳しくご説明頂きました。



ご講演中の石井先生



ご講演中の加藤先生

人事異動

平成27年4月より4名の先生が新しく大学勤務となりました。また上田先生が新しく医局長となられましたのでそれぞれの先生にコメントを頂きました。

関西医大眼科より入局して下さいました吉川先生です。

吉川 匡宣（平成15年川崎医科大学卒）

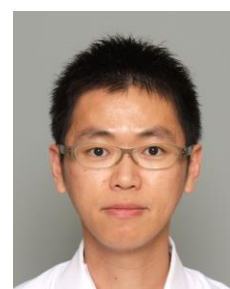
略歴ですが

H15年 川崎医科大学卒業
H15年 関西医科大学眼科学教室 入局
H17年 松江赤十字病院へ出向
H18年 吹田市民病院へ出向
H19年 関西医科大学 大学院入学（H24年 医学博士取得）
H24年 関西医科大学 眼科助教
H27年4月1日付で奈良医大眼科にてお世話になっています。

大学院時代に研究の指導をしていただいたのが緒方教授でしたのでその縁もあり、奈良医大で勤務させていただくことになりました。

専門としては緑内障と糖尿病網膜症をさせていただいています。

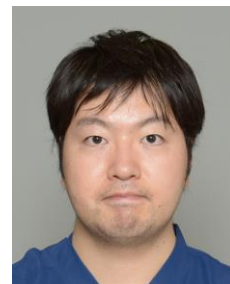
どうぞよろしくお願い致します。



続きまして済生会中和病院より辻中先生が戻ってこられました。

辻中 大生（平成20年奈良県立医科大学卒）

「助教」のような立派な役職をいただけるほど、立派になった覚えはないのですが、緒方先生はじめ諸先生方のご高配のおかげで本年4月より3年間勤務した済生会中和病院より大学勤務へと異動となり、助教を拝命いたしました。3年ぶりに大学に帰ってきた印象としては、ずいぶんシステムが簡素化されており臨床や研究に没頭しやすい環境になっているなというものでした。手術に関しても今まで自分たちで器具の洗浄や機械のセッティング、外回りなどもこなしており、手術日はほぼ毎日深夜まで残ってやっていたことを考えると、非常に恵まれた環境であると感じています。そして、その代りにスタートした臨床研究や実験が山のようにあり、毎日忙しくも充実した日々を過ごさせていただいています。



私はといえば大学院生時代に生化学教室で教えていただいた研究を、眼科教室に持ち帰り発展させるという命題をいただき、悪戦苦闘しながら先輩や後輩たちと少しずつ前進してゆく喜びを感じております。諸先生方には様々な面でご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、これからもよろしく願いいたします。

さらに奈良県総合医療センター（旧奈良県立奈良病院）より宮田先生が戻ってこられました。

宮田 季美恵（平成20年奈良県立医科大学卒）

奈良県総合医療センターから2年3か月ぶりに奈良医大に戻ってまいりました。

大学ならではの最新の診断・治療を勉強していきたいと思っています。

大学では黄斑専門外来を担当させて頂く予定です。

今後ともご指導・ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



最後に今年の1月より新しく上田先生が医局長になりましたので、一言頂きました。

上田 哲生（平成10年奈良県立医科大学卒）

平成27年1月より、医局長をさせていただいております。重責ある立場になり、これまでとは違った大変さを日々感じています。最初は、慣れないことに、どうなることかと不安な気持ちもありましたが、早いものでもう半年が過ぎようとしています。緒方教授の御指導をはじめ、医局の先生方の協力もあり、なんとかやることができ、ホッとした気持ちと感謝の気持ちでいっぱいです。今後は、臨床のみならず研究や新入医局員の勧誘などにも力を入れて医局を盛りたて、医局員の働きやすい環境作りに尽力していきたいと思っております。同窓会の先生方にも、日頃より医局運営におきまして、多大な御協力をいただいておりますが、今後より一層の御指導、御協力をいただけますようお願い致します。



留学報告

小島 正嗣（平成13年奈良県立医科大学卒）

私は2013年4月から2015年3月まで2年間のアメリカ研究留学生生活を終え、この4月から再び奈良県立医科大学で働かせていただいております。2年間臨床業務から完全に離れていたこともあり、復帰当初は忘れていたことも多くありましたが、2か月を経過しようやく仕事にも慣れ始めました。外来診療や手術などは忙しいですが、直接患者さんに接しながらする仕事はやはり楽しくやりがいがあります。2年間のアメリカ生活の感想は、「とにかくすばらしかった」ということにつきます。いろいろなトラブルや苦労などもありましたが、アメリカでは眼科の基礎研究を学んだのみならず、日本では得ることのできない、非常に多くの知識や友人や経験を得ることができました。それは自分だけではなく家族全員にとってとても良い経験であつたと感じております。あらためて、多忙にもかかわらず私を留学へと快く送り出し、また留学後にも快く迎え入れてくれた緒方教授をはじめ奈良医大眼科の皆様へ深く感謝いたします。そしてこれから留学するチャンスのある人には、ぜひ留学にチャレンジして欲しいと思っております。



留学最高！！

学会報告

ARVO2015 の報告

宮田 季美恵（平成 20 年奈良県立医科大学卒）



2015 年 5 月 ARVO2015 に参加させていただきましたので、報告させていただきます。

ARVO2015 はデンバーで開催されました。デンバーは標高 1600m (1 マイル) にあることから「マイル・ハイ・シティ」とも呼ばれる、コロラド州の州都です。米国のどの地域よりアートに対する意識が高く、市民 1 人あたりで換算すると、文化・芸術に充てる公費の割

合は全米で最も高いと言われています。また車で 2-3 時間程度行くと、ロッキー山脈が広がっており、避暑地としても人気の地です。

ARVO では基礎から臨床まで様々な発表がされており、最新の発見や治療法を知ることができ、最近注目されて積極的に研究されている疾患も分かり、勉強になりました。私の発表は、大規模疫学研究：藤原京スタディにおける眼科ベースライン調査結果を発表させていただきました。



超高齢化社会において高齢者の健康および生活の質の維持は重要です。「元気な高齢者の秘訣とはなにか?!」。2007 年高齢者の健康状態の特徴と生活の質 (quality of life: QOL) を調査する大規模疫学研究：藤原京スタディが地域健康医学教室を主体に開始されました。

対象は奈良県在住の 65 歳以上の独歩可能な男女で、ベースライン調査には 4427 名が参加しました。True Endpoint は、現在元気な高齢者がどのような疾患にかかり、死亡するかを調査することで、これらにどのような因子が関わるかを調査するコホート研究です。2012 年に 5 年後中間評価調査を施行し、眼科はこの調査より参加しました。ARVO2015 では、視力、眼圧、白内障有病割合と白内障手術施行状況、眼底撮影と OCT 検査からの網膜疾患有病割合について発表させていただきました。

世界的に多数の大規模疫学研究が施行されており、いくつかのグループの発表がありました。測定・解析方法など参考になる情報も多く、またとても刺激も受けました。今後の藤原京スタディ解析に生かしていきたいと思っております。

病院紹介

済生会奈良病院

植村 佐知子

済生会小史

明治44年2月11日 明治天皇は、時の総理大臣桂太郎を召されて「恵まれない人々のために施薬救療し、済生の道をひろめるように」との済生勅語に添えて、お手元金150万円を下賜された。この御下賜金を基金として寄付金を募り、恩賜財団済生会を創立した。

社会情勢の変化に伴い、存廃の窮地を乗り越えるなどの変遷を経ながらも、創立の精神を引き続いて、保健医療、福祉の充実に必要な事業に取り組んできた。

昭和26年に公的医療機関の指定、昭和27年に社会福祉法人の認可を受け、現在、社会福祉法人恩賜財団済生会となっている。

病院の状況

済生会奈良病院は、昭和22年にJR奈良駅近くの奈良市杉ヶ町に診療所としてスタートしました。現在の病院は、平成元年10月に新築移転されたもので、この時、眼科も開設されました。診療科は、内科、外科、整形外科、泌尿器科、神経内科、放射線科、麻酔科、耳鼻咽喉科、婦人科、リハビリテーション科、眼科です。奈良県北部に位置する公的病院として、「心ある医療」を病院の理念とし、地域住民のきめ細やかな医療を目指すことになっています。社会福祉事業法による無料または低額診療、成人病検診、在宅医療の推進、病診連携の拡張を図っています。



病棟の多目的ホールからは、春日の山並みを背に、興福寺、五重塔、東大寺大仏殿の屋根が映え、春には近くの佐保川沿いの桜並木が見事です。

許可病床は250床ですが、50床は休床しており、今年度中に200床に減る予定です。車がないと来院できない不便さ(病院の送迎バスを何度も提案していますが)等、要因は色々あるようで、患者数は減少傾向、経営は赤字が続いています。外来や、手術の器機の購入もなかなか許可されない状況です。

眼科の体制

現在、常勤医は1名ですが、大学医局より月、水、土の診察医、月、木の午後に手術の応援医を派遣いただき、厚く感謝しています。出張に来ていただく先生方とお話しするのは色々勉強になり、大変楽しみです。外来スタッフは、ORT2名、OMA1名、診察助手1名です。

看護師不足のため、昨年より眼科外来には看護師不在です。点滴等は内科処置室に患者さんを案内します。FAGは予約で行い、外来看護師に来てもらうよう依頼する必要があり、外来手術の際も同様です。



様々な問題はありますが、現在のスタッフで協力して、円滑に診療ができるよう頑張っています。

今後とも、ご指導、ご支援いただきますようお願い致します。

奈良県立医大 眼科外来診察表

		月	火	水	木	金
1診	午前	丸岡	上田	手術日	緒方	手術日
	午後	角膜外来	網膜硝子体外来	専門外来	網膜硝子体外来	専門外来
2診	午前	辻中	岡本	手術日	小島	手術日
	午後	角膜外来	緑内障外来	専門外来	眼循環外来	専門外来
3診	午前	山下	西	手術日	吉川	手術日
	午後	黄斑外来	小児・神経眼科 外来	専門外来	緑内障外来	専門外来
4診	午前	水澤	宮田	手術日	峯(第1,3,5) 大萩(第2,4)	手術日
	午後		黄斑外来	専門外来		専門外来
5診	午前	福島	水澤	手術日	小林(第1,3,5) 増田(第2,4)	手術日
	午後			専門外来		専門外来

- ・ 専門外来は完全予約制です。
- ・ 初診の場合はまず、月・火・木の外来を受診するようお願い致します。
- ・ 地域連携の予約は月・火・木が5名、水・金は3名可能となっております。

編集後記

平素は奈良県立医科大学眼科学教室の運営にお力添え頂き、誠に有難うございます。先生方のご協力によりニュースレターは今回で9回目の発行となりました。ニュースレターでは引き続き、同窓会の諸先生方からのご投稿をお待ちしております。テーマは自由ですので、何なりとご投稿頂ければ幸いです。ご投稿、ご質問などは下記メールアドレスまで宜しくお願い致します。

メールアドレス smaruoka@narmed-u.ac.jp 奈良県立医科大学 眼科 丸岡真治